

令和2年度学校自己評価システムシート (県立熊谷西高等学校)

目指す学校像	生徒の力を最大限に伸ばす県北が誇る進学校
--------	----------------------

重点目標	1 知性・勇気・品格を備えた西高生を育成する 2 高い志と学力を育み、第一志望進路を実現できる西高生を育成する 3 家庭や地域に積極的に働きかけ、開かれた西高づくりを推進する 4 SSH指定校として、西高生の科学的資質向上に全校で取り組む
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	16名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標			年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	現状 多くの生徒が前向きで節度ある学校生活を送っているが、自主性や積極性が一層高められる。 課題 ○挨拶の励行 ○マナーアップやルール順守の意識向上 ○自主自律の確立 ○バランスの取れた心身の鍛錬 ○教職員による指導の統一	⑦挨拶、マナー、ルール順守の意識を一層高める ④特別活動や部活動、行事を通して、自主性やコミュニケーション力を高める。 ⑦心身の健康増進を図る。	①不十分な振舞はその場でやり直させる。 ②新たな服装規定を徹底する。 ③交通安全指導、登校指導を定期的に行う。 ①生徒会、委員会、HR活動等において生徒の自主的運営を推進する。 ②行事を通して他者との協調を学ばせる。 ③部活動でチャレンジ精神やチームワークを育て、達成感や自信を持たせる。 ①「保健だより」等により健康啓発活動を行う。 ②環境美化と防災の意識を高める。 ③教育相談体制を充実させる。	①やり直し指導が徹底できたか。 ②服装規定の徹底ができたか。 ③定期的に実施できたか。 ①自主的運営を推進できたか。 ②生徒間で協調し行事が成功したか。 ③複数の部で県レベルの大会・展覧会等の入賞以上。 ①啓発活動の充実が図れたか。 ②美化意識、防災意識が高まったか。 ③生徒が相談しやすい環境を作れたか。	①やり直し指導の徹底はもう少し。 ②服装規定の徹底ができた。③定期的に実施できた。 ①②生徒・教職員の前向きな取り組みにより可能な限りの行事を実施し成功を取めた。③全国大会に3つの部が出場。 ①生徒作成の保健だよりにより充実した啓発活動が行われた。②美化意識はもう一歩。③家庭と連携しながら教育相談体制の充実を図った。	A A A	挨拶や規定順守の状況は一層改善されたが、不十分と感じた時のその場での指導を更に徹底していく。 出来ないことで諦めるのではなく、今年実践できた西高らしい取組を継続するとともに、次年度は前向きな改革の年とする。 引続き感染予防対策の徹底に努めながら、健康啓発情報の発信、生徒自身による健康管理や非常災害への備えを推進する。
2	現状 近年進学実績が向上しているが、生徒の一部には早めに目標を下げてしまう者も見られる。特に国公立大学への進学希望者数が、学年が上がるにつれ減少。また生徒の読書の質や量の低下が懸念される。 課題 ○「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ○第一志望を諦めさせない指導 ○国公立大学進学者数の増加 ○新入試への万全の対応 ○生徒の読書の質や量の確保	⑦高大接続改革の観点から進路指導の充実を図る。 ④補習や個別指導等により、国公立大学を始めとする第一志望校合格を実現する。 ⑦図書館利用の充実を図る。	①探究活動を通じて主体的に学ぶ態度を育てる。 ②授業においてAL(アクティブ・ラーニング)活動を充実させる。 ③朝学習、進路自習室、学習動画等の活用により、自主学習を推進する。 ①休業中及び平日補習・個別指導の充実、入試対策の充実を図る。 ②各学年とも複数回の個人面談により、最後まで高い目標を諦めない指導を行う。 ③ガイダンスや進路講演会で立志教育を行う。 ①授業等教育活動に図書館の資料を積極的に活用する。 ②ビブリオバトルを効果的に実施する。	①主体的な学びの態度が育ったか。 ②「主体的・対話的で深い学び」が実践できたか。 ③朝学習、自習室活用者及び家庭学習時間が増加したか。 ①補習の受講者数等が増加したか。入試結果の向上に繋がったか。 ②丁寧かつ効果的な個人面談が実施できたか。 ③生徒の目標維持に繋がったか。 ①図書館の利用時間や利用者数が増加したか。 ②効果的に実施できたか。	①②多くの教員がコロナ禍のなか様々な工夫をしながらALを実践し、生徒の主体的な学びを促進した。③朝学習、自習室を効果的に利用できる生徒が増えている。家庭学習は昨年より増加。 ①②③補習等の進路行事も縮小削減されたが、リモートによる面談や進路講演会の実施等、ICTの活用を通じて生徒の目標維持に努めた。国公立大学受験者が増えるなど目標を維持した生徒が多かった。 ①貸出数がやや減少。②全校一斉に実施はできなかったが学年単位で効果的に実施できた。	A A A	高大接続改革を踏まえた進路指導、学習指導の充実を推進する。また、感染症対策やICT活用の充実を図りつつ着実な授業改善と探究活動の一層の充実を進める。 感染症対策下でも補習や面談が有効的に実施できるような方策を検討していく必要がある。また、「進路の道標」の内容充実を図るとともに活用の機会を増やす。 本を身近に感じるような環境づくりを継続し、本を利用した生徒の活動機会を増やす方策を検討する。
3	現状 高大連携等特色ある教育が実施されている。積極的なPRで生徒募集にも繋げることが必要。 課題 ○PTA活動の充実 ○高大連携の推進 ○情報発信の強化 ○生徒募集活動の充実	⑦大学、企業、PTAとの連携を一層推進する。 ⑦生徒募集活動を一層充実させる。	①既存の連携を強化する。 ②新しい連携を構築する。 ③講演会や大学見学会等により保護者に十分な進路情報を提供する。 ④ホームページやスマート連絡帳をより魅力的で見やすく改善する。 ①学校説明会等の充実、学校案内やホームページの改善でPRを強化する。 ②公開行事や小中学生向けイベント等で生徒の活動をアピールする。	①参加者数が増えたか。 ②新しい連携ができたか。 ③参加者数が増え、十分な情報提供ができたか。 ④ホームページやスマート連絡帳の改善ができたか。 ①説明会等の充実、PRの強化ができたか。 ②生徒の活動が十分アピールできたか。	①②③今年度はやむを得ず中止した企画もあったが、その中でも国公立大説明会を新規に実施でき、生徒、保護者への情報提供ができた。④ホームページの情報整理やスマート連絡帳の登録方法を改善した。 ①②生徒募集関連の活動の多くが中止や縮小となったが、Webによる広報活動は大いに充実させることができた。	A B	昨年度や今年度の連携状況を踏まえ、感染症対策を講じた上で、関係機関との一層の連携強化や内容充実を図る。 十分な感染症対策を取りながら学校の魅力をより効果的にPRしできる取組を検討する。
4	現状 探究活動等に成果が見られる。SSH事業として更に全校的取組拡充の余地がある。 課題 ○全生徒の科学的思考力・判断力・表現力の育成を図る学校全体での取組 ○全職員の協力による探究活動の展開 ○大学や企業、他校等校外資源の活用	○SSH事業を通じて主体的な学びや探究心を醸成する。	①共通理解のもと全職員でSSH事業に取り組む。 ②各教科の授業や探究活動を通じて「KN-Line(熊西『学び』の双方向ライン)」を確立する。 ③「SL-Net(サイエンスラーニングネットワーク)」の強化や研究発表会等で積極的にSSHの情報発信を行う。	①全職員による事業展開ができたか。 ②各教科で「AL5Five」「LO5Five」を実践し「KN-Line」の確立に繋がったか。 ③SSH事業の効果的な情報発信ができたか。	①困難な状況の中、一定の取組ができた。②学校全体として探究活動や各授業における生徒発表の機会確保などKN-Lineの確立に努めた。③SL-Netもコロナ禍の大きな影響を受けたが、可能な限りの連携を図るとともにSSH事業の情報発信ができた。	A	今年度は感染拡大防止の観点より例年と比較し生徒同士の協働活動は控える場面があったが、様々な工夫をしながら多くの取組が実施できた。このノウハウを次年度に生かし、生徒研究発表会の拡充などSSH事業を一層推進する。

学校関係者評価	実施日 令和3年3月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が節度ある学校生活を送っているようだ。校外では一部の生徒が近隣住民から苦情をいただくこともあるので、今後一層地域との共生意識を持たせてほしい。 様々な活動に制限はあるが、西高らしさを途切れずに引き継いでいくことが重要。何事にも全力で取組むことが自分たちの自信に繋がる。 コロナ禍における行動様式の徹底を引き続きお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none"> 高大接続の様々な変化に対応しつつ国公立大学合格者が昨年度を超えた。今後も第一志望を諦めない進路指導をお願いしたい。 生徒は自分の第一志望の進路実現に対し、とても前向きな姿勢で取組んでいた。諦めない、妥協しない姿勢が全体的に育っている。 各授業における協調学習・アクティブラーニングでは、生徒同士の意見交換を進める中で、論理的思考や分かり易く情報発信する表現方法等を学んでいる。 大学受験に対する意識が十分でない生徒もいるようなので、動機付けになるような面談指導や補習等の更なる充実を希望する。 <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策の一環で中止や規模縮小の連携もあったが、探究活動に関わる連携が概ね実施できたことは評価に値する。 新規連携として地方国公立大学の合同説明会を実施したことは、素晴らしい取組であった。今後の継続を期待する。 ホームページ等を活用して保護者向け進路情報の充実を図ってほしい。 <ul style="list-style-type: none"> 学校全体としての探究活動やSSH事業への取組の深化を期待する。 多分野に目を向け自ら調べたり意見交換したりする力は今後の社会で必要とされる。 SSH生徒研究発表会では理数科のみならず普通科や部活動での探究活動の発表も素晴らしかった。来年度以降、実施形態や内容を更に検討し、可能であれば校外へのPRにも繋げて欲しい。